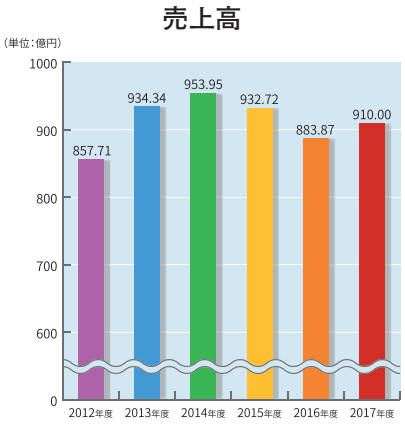
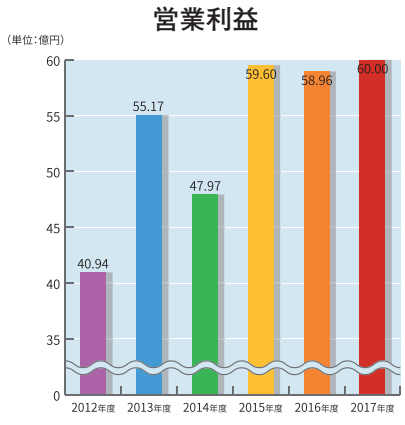
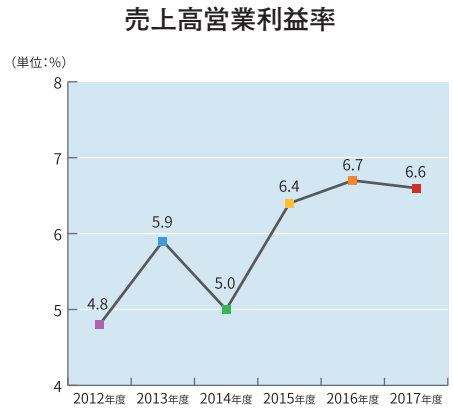
バンドー化学

革新製法確立により収益体質強化
中国・アジアで伝動ベルトを拡販

吉井満隆社長







バンドー化学は、2013年度から2022年度までの10カ年の中長期経営計画「Breakthroughs for the future」を推進している。その最初の5年間（2013−2017年度）である1st stage「BF-1」が最終年度を迎えた。そこで中計「BF-1」の成果と「BF-2」での飛躍に向けた課題・取り組みについてまとめた。

17年度売上高 910億円の予想

「BF-1」では、最終年度である2017年度に連結で売上高1,000億円、営業利益100億円という経営目標を設定し、この達成に向けて①グローバル市場戦略の進化②製品の進化③ものづくりの進化④新事業の創出⑤経営品質の進化という5つの指針のもと、改革に取り組んできた。

数値目標に関しては若干下回る見通しで、先ごろ発表した2017年度業績では、売上高910億円、営業利益60億円、営業利益率6.6%と予想している。目標値と17年度業績予想に乖離が生じた主な要因は①新興国経済の成長鈍化②新製品の開発・上市遅れ③コストダウン施策の進捗遅れ④販売管理費等の増加があげられる。販管費増は、経営品質の向上や②③のスピードアップに向けた先行投資が要因となった。

数値目標は未達の見通しだが、2012年度実績との比較では、売上高が43億円増、営業利益が20億円増、営業利益率が1.8%上昇している。

海外拠点新設、国内拠点は刷新

既存事業の強化という面では、自動車部品事業については、革新製法確立による収益体質の強化を進めた。

産業資材事業では、伝動ベルトの中国・アジアでの拡販に取り組み、コンベヤベルトについては、特長品による差別化や生産ラインの刷新、選別受注等により収益力強化に努めた。

高機能エラストマー製品事業は、高付加価値製品による新市場開拓に取り組んだ。

既存事業の強化に向けてコスト構造改革にも積極的に取り組んだ。その結果、原材料価格の低下もあり、売上原価率70%以下を達成、今後はその定着をはかっていく。

これまでの成果として、既存事業では、海外生産販売拠点の新設や国内生産拠点の刷新があげられる。海外は15年11月メキシコに伝動ベルトの販売会社を設立。16年11月にはベトナムに新工場を建設すると発表した。新工場では二輪車用伝動ベルトのほか、農業機械、産業機械、OA機器向けの伝動ベルト、クリーンニングブレードを生産する。17年下期には操業を開始する予定。またインド北部のグルガオンにあるインド子会社の本社工場についても同じ工業団地内にある新工場に17年上期をめどに移転する。

ベトナム新工場の完成予想図

国内では、加古川工場（兵庫県加古川市）のコンベヤベルト生産ラインと足利工場（栃木県足利市）の精密ベルト生産ラインを刷新、加古川工場は16年6月に、足利工場は16年10月に新生産ラインが稼働した。加古川工場の刷新には約20億円を、足利工場の刷新には2億円を投じた。

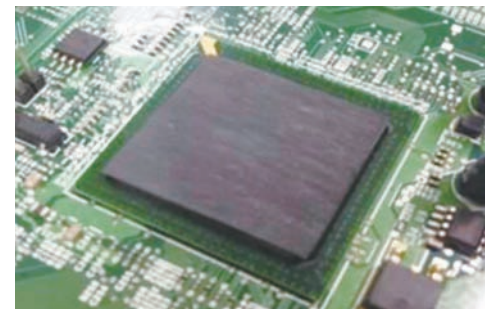
製品面では、①高負荷対応の歯付ベルト「Ceptor-X（セプターテン）」②シール部に特殊ポリウレタンを用いることにより、耐クーラント性（耐膨潤性）を高めたシールブレード「バンドーワイパーエッジEX」③国内初となる高温搬送用途で使用可能な自己消炎性を有した難燃耐熱コンベヤベルト「FR7000シリーズ（FR7500, FR7700）」④バイオマス発電プラント向けコンベヤベルト「BANDO FR-BIOS（バイオス）」などを開発・上市した。

新事業分野に関しては、コア技術に新技術を融合させ、次世代の柱となる新事業の育成に取り組んできた。具体的には、オプトエレクトニクス領域では、「光学用透明粘着剤シート（OCA）」、金属ナノ粒子インク「FlowMetal」。自動車・交通領域では「高熱伝導放熱シート」、金属ナノ粒子接合材「FlowMetal」、輸送貨物の固縛ベルト用張力計「LASHINGBITE」。ロボット領域では、「産業用ロボットデバイス」を、健康・福祉・医療領域では、伸縮性ひずみセンサ「C-STRETCH」を開発した。「LASHING-BITE」や「C-STRETCH」は販売を開始し、さらなるアプリケーション拡大に取り組んでいる。

同社の吉井満隆社長は「既存事業の強化では、革新製法の確立による収益体質の強化や一般産業用ベルトの中国、アジアでの拡販、コンベヤベルトの収益力強化、高付加価値品による新市場の開拓をはかってきた。新事業の創出については形が見えてきた。この4年間で製品化が進んでおり、一部では限定的ながら量産採用に至った製品もある。最終年度の1年間で、量産を開始させられるものもあると期待している」とBF-1を総括した。

新事業に関しては、「第2ステージであるBF-2で投資を進め、5年後にはベルトに次ぐ事業の柱に育てていきたい。新事業は、今後の伸びが見込まれるマーケットを狙い、BF-1としては、まずまずの成果を上げることができた。真価が出るのはBF-2になるだろう」と予想している。

伸縮性ひずみセンサ「C-STRETCH」の使用イメージ



高熱伝導放熱シートの使用イメージ

固縛ベルト用張力計「LASHINGBITE」

高負荷対応歯付ベルト「Ceptor-X」

新事業創出に向け、新技術の製品化進む